

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開文書

この研究の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。

なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の試料（例：血液など）や診療情報（例：カルテの情報など）をこの研究に使ってほしくないと思われた場合にも、下欄の問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

《試料・情報の 利用目的及び 利用方法》	<p>●研究の名称 大腸癌肝転移診断における仮想 Abbreviated MRI の有用性に関する多機関共同後ろ向き観察研究</p>
	<p>●研究の対象 2008年1月～2020年12月に当院で大腸癌肝転移検索目的に EOB 造影 MRI を受けられた方 200名</p>
	<p>●研究の目的 肝転移は大腸癌の転移の中で最も頻度の高い病変です。大腸癌では肝転移がある場合でも、原発巣と肝転移を完全に切除することができるかと判断された際には手術が推奨されるため、肝転移の個数や部位を正確に診断する必要があります。大腸癌術前あるいは術後の転移検索には CT が一般的に用いられますが、肝転移の診断能は十分とは言えません。一方、肝特異性造影剤である EOB を用いた MRI (EOB-MRI) は CT より肝転移の検出能が高いと報告されています。しかしながら検査時間が 30～40 分と長いことが欠点であり、すべての大腸癌患者さんにスクリーニングとして行うことはできません。 Abbreviated MRI (簡略化した MRI 検査) は 2014 年に乳腺 MRI で初めて報告された手法で、検査目的に応じて必要最小限の撮影のみを行い、検査時間を短縮するものです。肝臓 MRI でも有用性が検討されてきており、検査時間を従来撮影の 1/3 以下に短縮できると考えられています。しかしながら大腸癌の肝転移診断における検討は現時点で 1 編しか報告されていません。本研究では従来の EOB-MRI 撮影法 (Full study) と仮想 Abbreviated MRI (従来の撮影法から T2 強調像、拡散強調像、肝細胞相をピックアップしたデータセット) の大腸癌肝転移診断能を比較することを目的としています。</p>

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開文書

	<p>●研究の期間 研究機関の長による実施承認日から 2025 年 3 月まで</p>
	<p>●他の機関に提供する場合には、その方法 この研究では外部へ試料・情報を提供しません。</p>
<p>《利用し、又は提供する試料・情報の項目》</p>	<p>●研究に使用する試料・情報 情報：病歴、治療歴、MRI 画像、カルテ番号 等</p>
<p>《利用する者の範囲》</p>	<p>●機関名および責任者名 浜松医科大学 市川新太郎 山梨大学 森阪裕之 岐阜大学 野田佳史</p>
<p>《試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称》</p>	<p>浜松医科大学 放射線診断学講座 市川新太郎</p>
<p>《試料・情報の利用又は他の研究機関への提供の停止(受付方法含む)》</p>	<p>あなたの試料または情報を研究に使用することや、あなたの試料または情報を他の研究機関に提供することを望まない場合には、問い合わせ先まで連絡をいただければ、いつでも使用や提供を停止することができます。連絡方法は、問い合わせ先に記載のある電話もしくはメールでお願いします。</p>
<p>《資料の入手または閲覧》</p>	<p>この臨床研究の計画や方法については、あなたのご希望に応じて資料の要求または閲覧ができます。あなたのご自分の研究結果を知りたいと希望される場合は、研究担当者にその旨をお伝えいただければ、他の研究対象者に不利益が及ばない範囲内で、あなた自身にあなたの結果をお伝えします。希望された資料が他の研究対象者の個人情報の場合には、資料の提供または閲覧はできません。</p>
<p>《情報の開示》</p>	<p>あなたご自身が研究の概要や結果などの情報の開示を希望される場合は、他の参加者に不利益が及ばない範囲内で、原則的に結果を開示いたします。しかし、情報の開示を希望されない場合は、開示いたしません。 また、本研究の参加者以外の方が情報の開示を希望する場合は、原則的に結果を開示いたしません。</p>

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開文書

《問い合わせ先》	〒431-3192 浜松市東区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学 部署名： 放射線診断学講座 担当者： 市川新太郎 TEL： 053-435-2242 E-mail： shintaro@hama-med.ac.jp
----------	---